

り、支那人の指導を要せず、小隊長甘く指揮して狩る。甲の狩りたる跡を乙の隊再び狩りて、尙一二羽を得たるものあり。落花生の畑の一隅に網を張り、他の一端より追ふ、網の張り方要領を得れば收穫尤も多し。之れ綠葉地を覆ひて鶉の潜伏に宜しく、比較的多数のもの之に伏在すればなり、一度に十三羽の多さを得たるもの實に此の豆畑狩りのものにありしなり。然るに大抵は網の前縁地に接し折角追出されたる鶉は網の上に入りて不得已飛去る。高粱畑は一般に成績不良なり、一度に四五羽を最多とす。獲たるものは懐に入れる置く、暖かにして宜し。大抵追ふことに氣をさられて、之を容るゝ準備を爲さず。學生の氣傳編靴の紐を解き、鶉の足を縛して持來る、一つの紐に多きは十羽を維くべし。午前七時半一同集合し、獲物を調査するに、一の小隊にて最多は二十羽最少は六羽なりき。七時四十分飯を終り、歸途に就き正午歸校せり。獲たものゝ九割は鶉其の他はバン、シギ、クヒナ、アヲジ等なり。

因に、二〇三高地附近の草深き處にては長二丈幅六尺位の網を卓上に擴げ、上より押し付けてバン、シギ等を捕ふ、主として支那人の遣る所なり。九月下旬には鶉の市價低下して百羽一圓八十錢なり。鶉は籠養するも可なり、座敷に放つも一寸面白し、追ひ廻せば机の下に這入る、捕へて卓上に置けば、丸くなりて靜止すること十分時、宛然として置物の如し、餘所に見られぬものなり。支那

人生禽を賣り來る、ミミツク二錢、タカ七錢、ケウジャクシキ十錢なり。ミミツクを室内に飼ふ、猫の如き顔愛すべし。  
(脇山三彌)

●ナメウジ 越後長岡の中村正雄氏よりの書翰中に左の記事ありたり(一月二十六日附)。

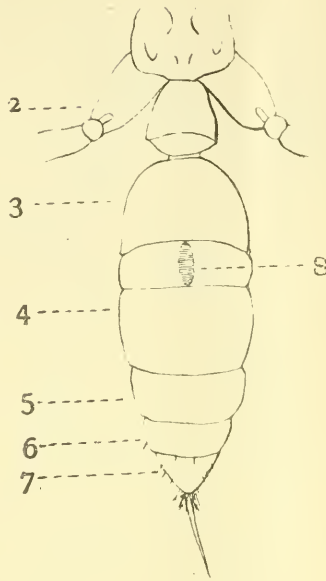
『去る四十二年八月本縣下妙高山に登山の際同山中腹にある燕(ツバメ)と云ふ温泉場に一泊致候然るに浴槽中に一寸許りの黒き蛆の浮遊するを認め候より急に嫌惡の念抑へ難く早速浴室を出で此附近を檢査致し候へども別に不潔らしき點も之無故不思議に思ひながら是々宿主に語りしに是こそ當温泉の名物にして此の湯蟲は小供の疳の蟲に即効あるもの故浴客は争ふて是を得んとするも日に三四疋より見る事能はざるものなりと云へり翌日温泉の泉源を探りしに湯の滲み居る附近の砂中には前種の湯蟲非常に多く居るを認め申候……地理によれば該温泉は硫黄泉にて溫度は華氏百十四度と有之候』

續て標本を惠與せられたり。丘氏の語らるゝ所に據れば是はナメウジとてミズハへ (*Stratiomys*) の幼蟲なりとのことなり。  
(谷津直秀)

●音を出す蟻 蟻の發音作用が確認せらるゝに至りしは、シアープ氏 (Sharp, D. 1893) の著ありし以後にして、近代の事なり。其の一般に就きては、曩に本誌二三卷二六一—二六二頁に於て述べし所なるが、今回プレル

氏 (PRELL, H, 1911) の新しき報文ありたる故、茲に是を紹介すべし。塲所は東アフリカのアマニ地方なり。一日氏は其の附近の野路を歩み居りしが、偶然にも蟻の行列に遭遇せり、是を注視するに及び、彼等は白蟻 (*Termites bellicosus*) の群を攻撃せしにや、何れも三四匹の職蟲或は一二匹の大なる兵蟲を顎に銜み、堂々として戦捷の歸

*Megatoponea fortens* の發音器 (擴大)



1—發音鏞面、2、3、4、5、6、7—第二—第七腹節

路を急ぎつゝあるものなるを得たり。然るに驚くべき事には、彼等は其の進行中絶えず一種の轉の音を出し、其の音色等は恰も獨逸邊に産する一甲蟲 (*Cricocoris lili*) の音の如きものなりと云ふ。今迄知られたる所によれば、蟻の音は極少數種の有に限られ、且つ一般に微弱なる故、吾人が聞かんには困難なりとせられしものなるが、今回の

は然らず、一二米離れても尙充分に聴き取り得べき程の強きものなりと云ふ。

其の生態學的の意味に至りては、一に危険の警戒に供する事、二に行列の一致團結の合圖に供する事、三に外敵恐喝の術となす等の想像を起し得るも、果して何れが眞なるか容易に斷じ難し。蓋し第三が其の真相なるべしと思はる。

音は一種の摩擦音なり。其の發音鏞面 (S) は第四腹節 (4) の背板に位置し、細織なる溝を彫む。摩擦片となるものは前位なる第三腹節 (3) の背板の後縁にして、其の中央には一小肥厚部あるを見る。發音するに當りては、蟻は其の後腹部を動かさ、伸出縮入を反覆すべし。かくすれば、自然、第三節の後縁なる摩擦片は第四節にある發音鏞面と相摩擦し、茲に音を發するに至るなりと云ふ。因に此の蟻は *Megatoponea fortens* FABR. と稱し、體は黒色を呈し、形は大小あるも平均一糶のものなり。

(朴澤三二)

● プランクトンの浮游作用

水中に於ける浮游作用を観察すれば其如何に巧妙に適應せるかを知るを得可し、今浮游作用に關しプランクトンを大別すれば (一) 水より比重小なるもの、(二) 水と同じ位の比重を有するもの、(三) 水より比重大なるものとして得べし。

仔魚及橈脚類 Pteropoda 族の中には水上に飛ぶもの